

教育同窓会 会報

- ・教育学部
- ・人間社会学域
学校教育学類
- ・大学院教育学研究科
- ・養護教諭特別別科

発行：金沢大学 教育同窓会事務局

第5号 2015.3.23



「思い出から・・・」

教育同窓会会長
金浦 修郎
(S43特別体育科卒)

38豪雪。翌年の春、小雨の中、今はなき四高の講堂で入学式を行い、教師への第一歩を踏み出してから4年間。高校時代の延長のような雰囲気だった教養部時代の1年半。専門課程に進んでからは連日青空の下での記録・技能習得と戦い、意のままにならないボールを追いかけて回し、たき火に当たりながらの若狭高浜で水泳をし、冬は冬で志賀高原の雪と戯れ、年中真っ黒に日焼けした頃は楽しかった。

しかし、このような楽しい思い出ばかりではない。研究授業が当たったからといって、辞書まで持ち出して指導案を作った教育実習。締め切り数時間前にやっとできあがった卒論など、苦しい事も多かった。そして、卒業を3ヶ月後にして、この世を去った〇〇さん。わずか2人しか女性がいなかったのに・・・。こんな4年間に楽しいこと、苦しいこと、悲しみというもの味わってきた。

S39年、私が入学した金沢大学教育学部(特別体育科)は、戦後の学制改革で廃校となった石川師範学校が姿を変え、S24年に設置された「教員養成学部」である。

この石川師範学校の最後の年(S23年3月)に卒業された小生の人生(教員の在り方)の大恩師から、「私の卒業式に当時の校長がくださった餞・励ましのお言葉に、次のようなことがあった」とお話を頂いた。

『教員を衣食住のためにする者を 教員という。』

『知識・技能を授けることを任務とする者を 教師という。』

『子どもの心に灯を灯し続ける者を 教育者という。』

諸君、いずれの道を歩まんや」と。

また、宮沢賢治が故郷へ帰り、教育者として話されたことも。

～私が先生になった時～
私が先生になった時
自分が真理から目をそむけていて、子ども達に本当のことが語れるか。
私が先生になった時
自分が未来から目をそむけていて、子ども達に明日のことが語れるか。
私が先生になった時
自分が理想を持たないで、子ども達に胸をはれと言えるか。
私が先生になった時
自分がスクラムの外にいて、子ども達に仲良くしろと言えるか。
私が先生になった時
一人手を汚さずに腕を組んでいて、子ども達に頑張れと言えるか。
真に「教員養成」の大学(学部)であり、教育界はもとより、多方面でご活躍の優秀な卒業生を輩出されている。

現在、私は金沢大学硬式野球部で現役選手と一緒に練習・リーグ戦(H22～)をやっている。チームは北陸大学野球連盟の1部リーグ(1部6チーム・2部7チーム)に属し、私立大相手に奮闘している。

主将中心に計画を立て、基本・実践形式でチーム力をあげている。授業のある日は全員がそろわず、練習内容も個人中心になる。でも、個人それぞれに力をつける努力に励んでいる姿は素晴らしい(伝統光好である)。環境(専用グラウンド等)もままならない中、懸命に!!私の現役時代は平和町の専用球場(現在の附属小・中・高校の場所)で練習や試合を行った。専念できる場で心身ともに磨き上げた。そのお陰で神宮球場に足を運べた。

毎年、OBと現役との結びつきを続けるためにOB戦を実施している。また、金沢大学硬式野球部OB会(球朋会)の総会を2年毎に開催し、金大野球の精神『勝利の喜びは一瞬の価値、勝利の克苦は永遠の価値』を確認している。ここでも、全国各地・各職場で活躍されている球朋会の方々が多く見られる。このことは、他の部・クラブ・サークル等々でも伺えると思う。

大学と卒業生の皆様、そして現役学生との交流・連携を更に深めてまいりたいと思っております。ご協力の程、よろしくお願いたします。

シリーズ 大学を訪ねて②

金沢大学附属中央図書館

金沢大学図書館長 古畑 徹



私の名前と写真を見て「あれ？」と思われた方もいるかもしれません。私古畑は昨年度までは資料館長でしたが、今年度から附属図書館長になりました。そのため2号続けての「顔出し」となった次第です。

角間北キャンパスにある中央図書館は、正式名称を「金沢大学附属図書館中央図書館」といいます。このような言い方をするのは、附属図書館にはほかに自然科学系図書館、医学図書館もあるため、附属図書館長はそれらすべてを統括します。ここでは『金沢大学附属図書館概要2014』に基づいて、中央図書館の概要についてのみご説明します。



中央図書館は、平成26年3月31日現在で、図書1,187,843冊、所蔵雑誌16,741種を所蔵しています。このほかに視聴覚教材6,549点（内訳は、マイクロフィルム829点、マイクロフィッシュ198点、ビデオテープ1,562点、CD2,264点、LD282点、DVD1,174点等）も所蔵しています。大型コレクションや個人寄贈の各種文庫の多くも中央図書館に置かれており、前者としては『景印文淵閣四庫全書』『フランス革命議会議事録』『ビザンツ研究資料コレクション』などが、後者としては『暁烏文庫』（浄土真宗明達寺住職暁烏敏師旧蔵書、49,124冊）『北條文庫』（第5代四高校長北條時敬氏旧蔵江戸期写本、1,713冊）『宮本文庫』（元金沢大学助教授・元滋賀大学長宮本憲一氏寄贈の環境関係書籍・資料、7,562冊）などが知られています。

利用状況は、平成25年度実績で、入館者数が434,498人（1日平均1,362人）、館外貸出76,486冊、複写サービス2,502件です。5年前の平成21年度実績は、入館者数357,453人、館外貸出66,081冊、複写サービス2,088件ですから、いずれも数値が大きく伸びています。その背景には、平成22年10月のリニューアルが大きく関係しています。このリニューアルで新設されたのが、ラーニングコモンズと呼ばれる、複数の学生が集まって情報資源を用いて議論しながら学習を

進める新たな空間です。2階のブックラウンジ、3階のオープスタジオ・グループスタジオがこれにあたります。ブックラウンジには、「ほんとかふえ。」が開設され、今ではコーヒーを飲み、軽食を取り、友達同士で話しながら、予習復習やレポート作成をする姿が普通になっています。また、ブックラウンジの壁面は展示空間にもなっているので、学生企画による展示発表などが頻繁に行われていますし、スクリーンやマイク設備もあるので、図書館主催のビブリオバトルの場としても使われています。こうした取り組みと、アクティブラーニングや自学自習を重視する近年の教育改革の方向性とがあいまって、入館者数が年々増えていっています。



近年、大学図書館はそうした新たな教育のための施設という位置づけがなされ、その方向での改革が進んでいます。本附属図書館も平成25年に中長期ビジョンを策定し、「大学とともに世界と地域に生きる知の前衛たちの図書館。われわれは、世界最先端の学術情報の受発信を担い、学習支援空間を強力に展開し、資料の電子化を可能な限り進める未来型の図書館をめざす」という前文のあとに6つの戦略を挙げており、そのなかには「自学自習」の理想を追求する学習支援センターとしての機能強化」「地域の公共図書館および大学図書館との連携強化」も謳われています。

中央図書館のみならず附属図書館はすべて、学外者にも開放されており、館内での閲覧・複写は誰でもできます。本学の卒業生・元職員ならば窓口で館外貸出もしています。館外貸出は、北陸3県に居住する、もしくは石川県に通勤・通学している市民ならば誰でもできます。また、平成26年からは金沢市立図書館の利用券を本学図書館の利用券として使うこともできるようになっています。新しい大学図書館に一度足をお運びいただければ幸いです。

特別寄稿

学校教育学類における教員採用試験を中心とした学生の状況

金沢大学人間社会学域学校教育学類教授 松原道男(就職委員会担当)

教育学部が学校教育学類に改組されたのが平成20年ですから、今年3月の卒業生は学校教育学類の4期生になります。教員養成に特化した学類として、運営の面でもだいぶ落ち着いてきたといえます。そこで、ここでは最近の教員採用を中心とした学生の就職状況を報告したいと思います。

平成25年3月卒業生(2期生)においては、卒業生の54%が正規教員として採用され、正規教員採用実績で金沢大学学校教育学類は全国一位になりました。平成26年3月卒業生の全国での順位はまだわかりませんが、正規教員率は、60%を超えています。また、平成27年においても、卒業生数がまだ確定していない段階ですが、正規教員率は、55%を超える見込みです。

このように最近の正規教員としての採用率が高い理由については、次の3点が考えられます。

一つ目は、各自治体における教員採用人数の増加です。学校教育学類では、北陸3県を受験する学生が多いのですが、たとえば今年度の石川県の小学校の受験倍率は3倍を切っています。退職者が多いためですが、今後の退職者数から、数年はこのような倍率が続くと思われる。ただ、これ以上の採用人数は望めないといえます。

二つ目は、学校教育学類における教員養成に特化したカリキュラムと、教育体制があげられます。教員の意識も教員養成を中心としたものになってきていると思います。専修によって異なると思いますが、たとえば私が所属している理科教育専修では、授業計画の作成と模擬授業を実施する授業において、理科教員6人全員が指導するようになっていました。教育学部時代では、教育法に係わる教員のみが行っていましたが、模擬授業においても、自分の専門である教科内容や教材、教育方法の視点などから、全員が指導を行っています。また、学校教育学類の教員は、ほぼ全員が大学院教育学研究科に所属し、しかも授業参観と授業分析に関する一つの授業については、全員が担当しており、教育実践に関する経験も豊かになってきています。

三つ目は、学生の主体的な取り組みです。学生が4年間を通して、教員になるための自主的な学習が行えるように「教師になるためのノート」、通称「なるためノート」をもたせています。

「なるためノート」では、課題レポートや読書、学校での教育支援活動などの項目をあげており、学生が主体的に取り組むようにしています。最近では、教員採用試験に向けて仲間グループを作り、模擬授業や面接の練習を自主的に行っている学生を多く見かけるようになりました。

以上のような点が、正規教員としての採用率を上げている要因と考えられますが、今後については、次の点が課題としてあげられます。退職教員数からみて、教員採用数もいずれは減少してきます。そもそも今日の教育現場を見るときに、採用試験の合格のみを意識した勉強では、教員になって十分とはいえません。教員採用試験に合格するだけでなく、金沢大学を卒業した学生は、ゆくゆくは学校において中心的な役割を果たし、若い教員を指導できるような人材になってほしいと思っています。そのために、大学時代にしっかりとした基本的力を身につける必要があります。

最近の学生の傾向として、教壇に立っての話し方や簡単な指導など、実践の初歩的なことは、昔に比べてできるようになってきています。一方、わからないことはweb上で頻繁に調べていますが、それだけで終わってしまうことが多くみられます。辞書的な知識しか残っておらず、教員において必要とされる問題解決の能力が不足することが懸念されます。たとえば専門書をじっくり読み、考えて、しっかりとした教育観を身につけておく必要があるといえます。学生には、教員採用試験に合格するだけでなく、教員になってからのことも意識しながら、大学生活を送ってほしいと思いますし、我々教員側もそのことに留意した指導が必要であると感じています。



模擬授業風景

【追記】先日の文科省からの発表によると、平成26年3月卒業生における国立大学教員養成分野での教員就職率(正規+臨時)は全国2位、正規のみですと全国1位(計算による)という結果でした。

平成26年度 数学教室同窓会 総会・懇親会開催

平成26年10月18日(土)

金沢ガーデンホテル

本会の正式名称は、「金沢大学教育学部数学教室及び学校教育学類数学教育専修同窓会」です。毎年10月に総会及び懇親会を開催しており、今年度は27名の参加がありました。

総会では、「活動報告」「会計報告」「監査報告」「平成26年度役員」が承認された後、「総会及び懇親会への参加者を増やすために」と題して協議を行いました。ここ数年の参加者数は多いとは言えず、大勢の方に参加していただけるよう方策を検討しているところです。参加者の方から「来年は友人を誘って参加したい」との意見が出され、多くの賛同をいただき嬉しい限りでした。

懇親会では、恩師 久志本 茂 先生、同窓会顧問 大谷 実 教授、現職教員 山下 浩 教授、伊藤 伸也 准教授から挨拶をいただいた後、毎年恒例となっている参加者一人一人からの現況報告を行いました。懐かしい思い出話に花が咲き、たいへん楽しいひとときを過ごすことがで

きました。

本同窓会では、毎年、会長及び副会長が研究室を訪問し、卒業を迎える学生に同窓会入会について説明し、ご理解を得て、ほぼ全員の方に入会していただいております。また、平成23年度からは、会員の方々に「同窓会維持協力金」をお願いし、毎年多くのご協力を賜っております。この場をお借りしてお礼を申し上げます。なお、平成23年11月には金沢大学学友会登録同窓会としての加入が承認されました。



(平成26年度会長 岡田 憲和 H2年卒)

☆☆☆学友支援室からのお知らせ☆☆☆

平成26年11月1日(土)、本学角間キャンパスにおいて、第8回金沢大学ホームカミングデイを開催しました。歓迎式典には233名、記念懇親交流会には180名の卒業生およびそのご家族等にご出席いただき、大変賑やかな1日になりました。歓迎式典では、山出保金沢大学学友会会長の祝辞、山崎光悦学長による金沢大学の近況報告の後、金沢大学が受け入れた最初の外国人留学生であるデービッド・クライン博士からメッセージをいただきました。記念講演では、「不老長寿」と題し、スノーデン株式会社代表取締役会長・社長 明壁義蔵氏(昭和35年薬学部卒業)にご講演いただきました。引き続き、金沢大学学友会 第4回役員総会も開催され、役員の交代等について報告がなされました。

第9回ホームカミングデイは、平成27年11月1日(日)に開催予定です。

この前後日に同期生やサークル仲間のみなさまとの同窓会の開催をご計画いただき、懐かしい母校にぜひお越しください。

■金沢大学学友支援室ホームページ(ホームカミングデイの情報も掲載)

http://www.adm.kanazawa-u.ac.jp/ad_gakuyu/index.html

■学友支援ニュース・レター(学友支援室ホームページ内にPDF版を掲載)

同窓会の開催予定や報告、本学の行事・イベント等をご紹介します。

お願いとご案内

- ★同期会や研究室の同窓会などの開催予定や開催報告を、同封の返信用はがきで、事務局までご連絡ください。
- ★同窓会を開催するにあたって、名簿などの情報が必要でしたら、事務局までお問い合わせ下さい。
- ★臨時同窓会費(一口1,000円)にご協力ください。
[ゆうちょ銀行]振替番号:00710-9-100435
加入者名:金沢大学教育同窓会

【事務局】 〒920-1192 金沢市角間町
金沢大学事務局 学友支援室内
Tel. 076-264-5081
gakuyu@adm.kanazawa-u.ac.jp
事務局長:本多芳樹(Tel.076-261-7539)

臨時同窓会費にご協力いただいた方々(平成26年度)

久保定子 長井厚子 和田節子 (敬称略)

編集後記

学友支援室で永年にわたり本会のお世話を頂いた方から、昨年の会報発行後に「金大の教員採用状況が全国で2位になったことを、同窓生にきちんと伝えて欲しい」というご助言を戴きました。同窓会報は、同窓生の近況や大学の動向を伝えることが使命だと考えます。今後とも大学や同窓生の皆様から情報を戴きながら、編集を進めていきたいと思っておりますので、ご協力くださいますようお願いいたします。(副会長 澤野 記)